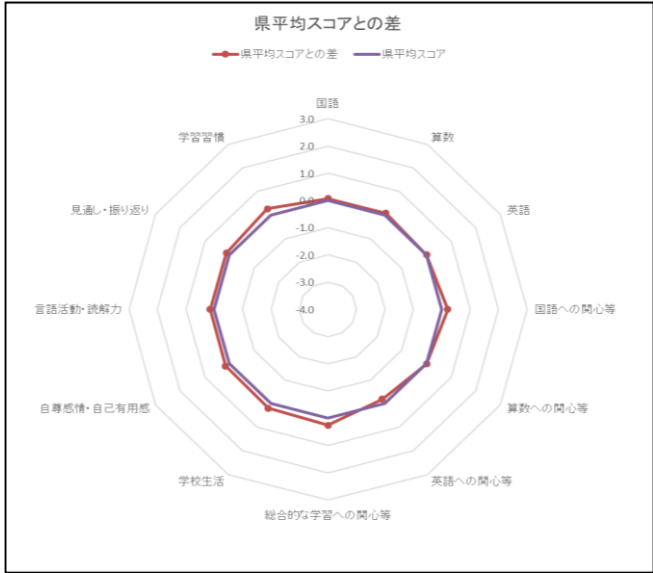


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立小学校全体)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策
5年	国語	○前学年までに学習した漢字を正しく読むことや、文の構成(主語・述語の関係)について理解することについては定着がみられる。 ●「読むこと」に関して、問われている内容を的確にとらえたうえで、読み取ったことや自分の考えをまとめることについて課題がみられる。	○「まつえ『子ども夢☆未来』プロジェクト」を推進し、教師の授業力・指導力の向上を図るために、以下のような対策を行う。 ・学校訪問指導の充実・強化(計画訪問指導・悉皆訪問指導・ほっとらいん訪問指導等) ・教職員の研修の充実(フォローアップ研修の充実、英語科やプログラミング教育にかかわる研修の実施) ・全国学力学習状況調査結果の伝達と分析に係る研修の開催
	算数	○基本的な計算問題については、概ね定着が図られている。 ●割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になる問題に課題が見られる。	・学力向上支援員や学力向上支援講師の配置 ・学力向上研究支援事業(経費補助)の実施
6年	国語	○前学年までに学習した漢字を正しく読むことや、読み手を意識した効果的な表現の工夫をとらえることについては定着がみられる。 ●「読むこと」に関して、複数の文章を読んで、そこから自分の考えを与えられた条件のもとでまとめることについて課題が見られる。	・学力向上支援員や学力向上支援講師の配置 ・学力向上研究支援事業(経費補助)の実施
	算数	○複雑な平面図形の面積の求め方を理解し、求める式に合う正しい図を選ぶことができている。 ●与えられた資料から、自分の考えを必要な言葉や式を使って説明する問題に課題が見られる。	・市長杯イングリッシュコンテストの開催 ・かしこい体づくりの推進 ・メディア対策の推進や家庭学習の拡充に向けたPTAや関係諸機関との連携強化

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート
5年



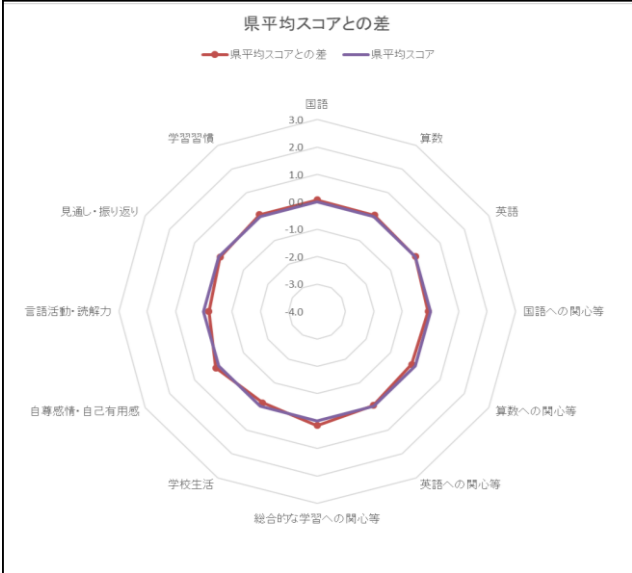
(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	松江市	61	60
	島根県	60	59

受検者数
5年生 1609 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 1731 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業中に発表する機会が十分に確保され、話し合い活動も多く取り入れている。また、総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、情報を整理して発表する学習が十分に実施できており、主体的、対話的な学習が進んでいることがわかる。特に、国語に対する興味、関心、意欲が高く、学習内容が理解できているという自己評価も高い。 ●「英語の勉強は好きだ」は5. 3P「英語の授業内容はよくわかる」は3. 6P、肯定的回答の県平均を下回っている、一層の授業改善が必要である。	○子ども達の主体的な学びを支えるために、以下のような取組を推進する。 (1) 家庭での予習復習(宿題)への取組 ・習慣化した学習の積み重ねが学習内容の定着につながる。 (2) 家庭での読書 ・読書を通して感性や多様なものの見方・考え方を身につける。 ・いろいろなジャンルの本と出会うことで、生き方を学び意欲的な学習につなげる。 (3) 電子メディアの使い方 ・ゲームやスマホなどの利用について、個人、家庭、学校、学園でメディアルールを作成し取り組む。 (4) 家庭での手伝い ・家族の一員としての役割は、学校や社会でも必要な力となる。 ・自分と他者を大切にすることは学習の基盤となる。 (5) 親子での会話 ・「認める、褒める、励ます、ねぎらう」言葉は、自尊心を高めることにつながる。 (6) 「学力の樹を育てるための 家庭生活5か条」の推進(島根県教育委員会「学びのすすめ」リーフレットより抜粋) 第1条 「ねえ聞いて」家族の豊かな会話 第2条 「さあ読もう」家庭で広げる、豊かな読書 第3条 「よし時間」けじめをつけよう生活習慣 第4条 「もう一度」授業と家庭学習 第5条 「あと5分」伸ばそう自分の可能性
	家庭学習に関わる事項	○「授業の予習・復習」「家庭学習時間の確保」「教師が宿題を丁寧に返している」の割合が県平均を上回り、家庭学習が学力の定着に結びついていると言える。 ●学校で「図書館を使って授業をするのは好きだ」の回答は県平均を上回り図書館教育の効果が上がっているが、家庭での平均読書時間は県平均を下回り、読書習慣の定着の必要がある。	
6年	授業改善に関わる事項	○授業で「グループでの調べ学習」「考えを発表する機会」は、肯定的回答が多く、主体的に学ぶ授業改善が行われていると言える。 ●「授業で話し合う活動をよく行っている」は、県平均を下回り、対話を取り入れた授業を一層行う必要がある。	
	家庭学習に関わる事項	○「家で授業の予習・復習をしている」は、県平均を上回り、宿題だけではなく自分で決めた課題に取り組んでいると言える。 ●「家庭学習時間1時間以上(平日)」「宿題を丁寧に返している」がともに県平均を下回り、家庭学習の方法等について、改善する必要がある。	

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

